

令和4年度
事業報告書

社会福祉法人楽友会

目 次

I. はじめに（総括）	1
II. 法人	2
III. 施設サービス（特別養護老人ホーム・軽費老人ホーム）	
1. 特別養護老人ホーム白楽荘（入所・短期入所）	7
2. 軽費老人ホームA型 偕楽荘	12
IV. 在宅サービス（通所介護・訪問介護・居宅介護支援）	
1. 白楽荘デイサービスセンター えがお・ほのぼの	16
2. ほのぼの堀之内	21
3. 白楽荘訪問介護事業所	24
4. 白楽荘居宅介護支援事業所	27
5. 白楽荘居宅介護支援事業所とよがおか	30
V. 地域包括支援センター（多摩市・八王子市）	
1. 多摩市多摩センター地域包括支援センター	33
2. 八王子市高齢者あんしん相談センター由木東	36

表の見方

重点的な取り組みの大項目	
《内 容》	《結 果》
・ 具体的な取り組み	取り組み結果コメント
・ 目標年間利用率	取り組み結果コメント
《総括》 大項目についての総括コメント	《総合評価》 A～C
《次年度以降にむけて》 今後の方針や取り組みなど	

総合評価 A：重点的な取り組みについて達成できた。

B：重点的な取り組みについてほぼ達成できた。

C：重点的な取り組みについては不十分だった。

I. はじめに（総括）

令和4年度は以下の基本方針のもと事業に取り組んだ。

令和4年度 基本方針

- 【 サービス 】 引き続き新型コロナウイルス等感染症対策に取り組み、安定的に必要なサービスを安心とともに提供します。
- 【 人材育成 】 職員のスキルの向上や資格取得への支援とともに、福祉・介護実習生の受け入れに努め、次代を担う人材の育成に取り組みます。
- 【 地域・社会 】 地域福祉の充実増進にむけて、地域住民や関係機関との協働・連携を深め、地域の課題解決に取り組みます。

1. サービスについて

各施設事業所が細心の注意で利用者及び職員への感染防止対策に取り組み、安心安全のサービス提供に努めた。しかし、夏の第7波、冬の第8波は施設事業所に大きな影響を与え、特に特別養護老人ホームではその時期に2度のクラスターが発生。感染した利用者は病床ひっ迫により施設内での療養を余儀なくされた。施設内療養は特別養護老人ホーム以外の部署からも職員が応援に入り、収束にはともに約1ヶ月半を要した。この間、新規入居や短期入所サービスの受け入れも休止となり多くの利用者に影響を及ぼす結果となった。この施設内療養の経験は今後の感染症対策にしっかりと活かしていかなければならない。また、訪問介護事業所は人員不足を解消することができずサービスの提供を継続することが困難となり、年度途中で事業を終えることとなった。介護人材の不足は当法人だけの課題ではなく、今後も業界全体の問題として取り組む必要がある。

2. 人材育成について

当法人ではコロナ禍にあっても次代を担う人材育成のため、実習生の受け入れに積極的に努めてきた。新型コロナの影響により受け入れ先施設が確保できず急遽当法人施設へ実習依頼されることも複数あったが可能な限り対応した。職員研修は法人で実施するコンプライアンス研修や階層別研修、施設事業所ごとの専門職研修などを実施し職員のスキルアップに努めた。コロナ禍ではオンライン形式による研修が増加したがそれに対応するためのネットワーク環境は適宜整備し、職員の研修機会確保に取り組んでいる。

3. 地域・社会について

コロナ禍では人と人のつながりが希薄化し特に地域で孤立する高齢者への支援が課題となっている。健幸つながる広場とよよんでは多摩市社会福祉協議会と連携し地域住民によるサポーターを中心に地域の居場所づくりに取り組んだ。また、多摩市及び八王子市の両地域包括支援センターでは、多くの地域活動に参画して地域のネットワーク作りに取り組んだ。また、虐待ケースをはじめ地域の様々な困難事例においては、地域包括支援センターと当法人の各施設事業所が連携して対応し、地域福祉の充実増進にむけて取り組んでいる。

II. 法人

1. 令和4年度の重点的な取り組みについて

人事制度の見直し及び改編		
《内 容》	《結 果》	
<ul style="list-style-type: none"> 等級制度の見直しを図り、新たなキャリアパス体系に基づく給与制度や人事考課制度の構築に取り組む。制度の体系をまとめ職員説明会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい給与制度や人事考課制度の策定に取り組み、職員説明会や考課者研修を実施した。策定にあたり担当でシミュレーションを繰り返し、都度見直しを図るとともに月に1回以上のミーティングを実施。 	
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 人事制度について職員説明会を実施した。しかし、数回の説明だけでは十分な理解を得るのは難しい。制度の基本的な構築は計画通り進行できた。説明会や考課者研修でさらに理解を深める必要がある。 	《総合評価》 <p style="text-align: center;">A</p>	
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 職員説明会は次年度も引き続き実施する必要がある。人事考課では職員個々の自己評価、考課者による適正な評価にむけた研修も行なわなければならない。また、新たな職位等の格付けについて検討していく。 		

山王下施設大規模修繕		
《内 容》	《結 果》	
<ul style="list-style-type: none"> 設備更新及びリフォームプランの見直しと実施設計業務に取り組み、東京都への補助金申請を行う。修繕工事は令和5年度後期に施工を予定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京都への補助金申請を年度内2期に合わせて実施した。修繕工事は資材の高騰や設備更新の工期の問題も重なり、工事方法や工期について大きな変更を余儀なくされている。 	
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 補助金対象の工事内容の見直し、設備更新（エレベーター・空調システムなど）の工期の変更、資材の高騰から改修内容の細かな見直しに取り組んだ。次年度着工にむけた準備を進めることができた。 	《総合評価》 <p style="text-align: center;">B</p>	
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 工事詳細内容の決定、職員等への説明、居ながら改修の具体的な仕分けの検討、入札業務、修繕業者の選定、工事準備、工事着工など様々な対応が必要な年度となる。適切に実施するために全職員への理解を深め協力体制を構築していく。 		

健全な法人経営を目的とする経営管理本部の体制の整備		
《内 容》	《結 果》	
<ul style="list-style-type: none"> 事業運営に関するコンプライアンスの遵守と倫理観や社会的規範を考慮した事業所支援に取り組む。 補助金申請の担当者を配置し、手続きの迅速化を目指す。 コスト削減のための担当者を配置し、事業所間の横断的な管理体制を目指す。 人材確保のための募集活動の強化に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 育児休業等、介護休業等の見直しや就業規則の改定を行う。しかし、勤怠管理に関する課題もあり、今後の改善が必要である。 コロナ関連も含めて、補助金に該当する項目の申請業務を適切に実施している。 人材確保が困難な現在、人事担当者を中心に新たな仕組みの導入などで人材確保に取り組んでいる。 	
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 補助金申請業務や人材確保に関してはほぼ目標を達成することが出来た。しかし、コンプライアンス遵守については勤怠に関する人事案件で大きな課題が表面化。特に管理職の権限と法人への報・連・相のあり方について今後の改善が必要となる。 	《総合評価》 <p style="text-align: center;">B</p>	
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 法人経営や事業運営について管理職間の意思統一をより一層図っていく。管理職を対象とした研修の充実や会議のあり方を見直し、組織運営へのガバナンス強化に取り組む。また、法人の主要な規程について解釈や運用に誤解がないよう、具体的な説明や運用例などを作成する。 		

コロナ感染症対策と事業所支援		
《内 容》	《結 果》	
<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症の関連商品や衛生用品の安定的な確保と補助金などの経費に関する総合支援に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスによるサービス事業所のクラスター発生や事業所休止など、緊急事案に対して適宜対処できるよう支援した。 	
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの流行から3年目を迎えた今年度、クラスター発生時における必要物品やそれらの数量を全体的に把握し適宜補充に努めた。感染発生時の支援だけでなく、緊急時に必要な物品が確実に入手できるよう購入ルートも確保し、事業所支援の準備を滞りなく行うことが出来た。 	《総合評価》 <p style="text-align: center;">A</p>	
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 2類相当から5類に移行することで必要になる対応について、行政や関係機関からの情報を整理し、適宜対応出来るよう担当者を配置して備える。 		

全体総括（特に良かった点・今後の課題など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨今の光熱水費や物資等の価格高騰に対し経費削減や補助金申請により成果を得た。 ・ 規程等の見直しについては、優先順位をつけて順次取り組み中である。 ・ 大規模修繕や人事制度の改編、経費削減のための実務など、引き続き法人として取り組む案件は多い。そのため法人本部と各サービス事業所が法人経営や運営に関して相互理解を深めことにより、より効果的な連携を図ることが重要である。 ・ 適正な法人経営と事業継続のため、管理職層の人材育成が急務となっている。

2. 令和4年度法人職員研修について

各施設事業所職員合同の研修を以下のように実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、感染が拡大している時期は感染防止のため開催を見送った。

研修名	内容	参加者数
新任研修	<p>入職時に受講。令和4年度は計5回実施。</p> <p>1日目：法人概要・職業倫理・サービスマナー・防災知識・各種規定等 楽友会職員としての基礎知識</p> <p>2日目：各部署見学研修</p>	<p>計5回実施 延べ18名参加</p>
新任フォローアップ研修	<p>入職後約半年経過した職員が参加。振り返りやフォローアップを実施。</p>	<p>計2回実施 延べ10名参加</p>
他部署体験研修	<p>入職3～5年目の職員を対象とし、本人が希望する他部署での1日体験研修。</p>	<p>5名参加 ※新型コロナウイルス感染症の影響により当初予定より参加者数減少</p>
中堅職員研修	<p>入職5～7年目の職員を対象とし、中堅職員として現場での問題解決能力向上にむけて、課題の抽出や解決策の検討など。</p>	<p>0名 ※新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止</p>
コンプライアンス研修	<p>コンプライアンスの重要性とその意義を学ぶ</p>	<p>計6回実施 延べ50名参加</p>

3. 防災訓練

法人防火管理者が中心となり各施設事業所の防災訓練を以下のとおり実施した。また、その他に職員安否確認システムを使用して月1回の非常通報運用訓練を実施した。

実施日	訓練内容	想定出火場所等	参加者
4月18日	消火・避難訓練（消火栓・消火器使用） 夜間想定	3階厨房	偕楽荘3階利用者、 職員
5月31日	消火・避難訓練（消火栓・消火器使用）	1階ゲストルーム	偕楽荘1階利用者、 職員
6月27日	消火・避難訓練（消火栓・消火器使用）	2階多目的室	偕楽荘2階利用者 職員
7月22日	消火・避難訓練（消火栓・消火器使用）	3階静養室	偕楽荘3F利用者、 職員
8月24日	避難訓練（震度6の地震想定）		偕楽荘1F利用者、 職員
9月21日	避難訓練（震度6の地震想定）		偕楽荘2F利用者、 職員
10月31日	避難訓練（震度6の地震想定）		偕楽荘3階利用者、 職員
12月29日	避難訓練（震度6の地震想定）		偕楽荘1階利用者、 職員
1月24日	避難訓練（震度6の地震想定）夜間想定		偕楽荘2階利用者、 職員
2月27日	避難訓練（震度6の地震想定）夜間想定		偕楽荘3F利用者、 職員
3月13日	避難訓練（震度6の地震後の火災）	2階洗濯室	偕楽荘全利用者、 職員
5月4日	防災訓練についての講義・意見交換		在宅SC利用者、職 員
7月26日	消火・避難訓練（消火栓・消火器使用）	4階厨房	在宅SC利用者、職 員
9月29日	消火・避難訓練（消火栓・消火器使用）	4階厨房	在宅SC利用者、職 員
1月26日	災害・地震等の講義・意見交換		在宅SC利用者、職 員
3月28日	コロナ禍における火災の現状		在宅SC利用者、職 員

4月20日	消火・避難訓練（消火栓・消火器使用）	7階配膳室	白楽荘7階利用者、職員
5月18日	消火・避難訓練（消火栓・消火器使用）	6階配膳室	白楽荘6階利用者、職員
6月15日	消火・避難訓練（消火栓・消火器使用）	5階配膳室	白楽荘5階利用者、職員
7月20日	地震時の安否確認、報告訓練（BCP）		白楽荘職員
9月21日	消火・避難訓練（消火栓・消火器使用）	7階配膳室	白楽荘7階利用者、職員
10月19日	消火・避難訓練（消火栓・消火器使用）	6階配膳室	白楽荘6階利用者、職員
12月27日	消火・避難訓練（消火栓・消火器使用）	5階配膳室	白楽荘5階利用者、職員
3月10日	消火・避難訓練（消火栓・消火器使用）	5階配膳室	白楽荘5階利用者、職員
11月17日	総合防災訓練（地震発生時を想定）		楽友会職員、自治会

Ⅲ. 施設サービス（特別養護老人ホーム・軽費老人ホーム）

1. 特別養護老人ホーム白楽荘

令和4年度の重点的な取り組みについて

《特別養護老人ホーム》

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
利用率：95.0%	92.4%
収益：678,000千円	678,392千円
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス等の感染症拡大防止。 	<ul style="list-style-type: none"> 8月から9月にかけて利用者24名が感染。また12月から2月にかけても利用者69名の感染が発生した。感染拡大防止に努めるも感染力の強さから蔓延防止が困難であった。 利用者の感染に対して医療ひっ迫により施設内療養で対応した。 第7波、第8波の感染拡大期以外は感染を防ぐことができた。
<ul style="list-style-type: none"> 入居待機者の安定的確保。 	<ul style="list-style-type: none"> 入所待機者の現況調査により待機者の状況を確認した。10月時点で344名の入所希望あり。 毎月適宜入所判定会議を開催し次期入居予定者を迅速に決定した。
<ul style="list-style-type: none"> 介護職員の人材確保。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は中途採用が1名、令和5年度新年度採用が3名となり、欠員補充ができた。 年間を通して実習生の受入れに積極的に応じ、新年度採用につなげた。
《総括》 新型コロナウイルス感染症の影響により利用率は目標に届かなかった。年間を通して感染対策に注力したが感染を防ぐことは困難であった。施設内療養では刻々と変化する状況下で全職員が協力して感染収束にむけて取り組んだ。	《総合評価》 B

《次年度以降にむけて》

新型コロナ感染症対策は5類移行後も継続することとなる。これまでの感染対応による経験を活かして感染が発生した際には早期収束に取り組む。入居待機者の調査による待機者の把握、適宜の入居判定に取り組み、円滑な新規入所に引き続き取り組む。

提供サービスの充実・向上

《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の生活の質の向上を目指し、個別性を重視したケアプランの作成及びケアの提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種で情報共有しケアプラン作成に取り組めた。 ・ 利用者の小さな変化からもその都度職員間で支援について話し合うよう努めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な感染症対策を講じ、利用者の生活の質を意識した安全・安心なサービスの提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設内療養中でも軽症者や無症状者の身体機能の低下を防ぐため、可能な限り日常生活動作の維持に努めた。 ・ 日常的な感染対策には継続して取り組み、クラブ活動や家族面会などを再開した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者が快適に過ごせる生活環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適宜の換気や3密を回避した活動に取り組んだ。 ・ 季節を感じられるよう四季の行事や装飾に取り組んだ。

《総括》

コロナ禍での日常生活で感染リスクの低減に努め、ボランティアの受入れや家族との対面での面会を再開してきた。個々のケアプランの充実を図り、少しでも施設での生活が快適に過ごせるように取り組んだ。

《総合評価》

A

《次年度以降にむけて》

感染防止対策を継続して、さらに個々の活動が活発になるように取り組む。個別支援によるレク活動の充実をはかる。

人材育成・やりがい・はたらきがい

《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織機能を強化し情報の共有に取り組み、職員の意見が運営に反映できる体制を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナ対応など即時対応が必要な事案については現場職員が適宜検討し決定した事項を全職員へ通知し周知できた。 ・ 主任会議や各種委員会での検討結果を職場内で周知して業務の標準化に繋げた。

<ul style="list-style-type: none"> 職員の労働環境の整備に向けた検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 多摩市内特養人材交流の取り組みにより他施設のケアについて学ぶ機会を得た。 業務の効率化や省力化にむけた検討及び ICT 機器の情報収集に取り組んだ。機器導入については引き続きの検討課題となった。 	
<ul style="list-style-type: none"> 専門技術の向上及び知識習得につながる階層別研修などの研修機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> WEB 研修の活用や施設内での集合研修などで専門技術や知識を学ぶ機会を作ることができた。 	
<p>《総括》 WEB 研修の活用で研修への参加機会を確保することができている。他施設との交流機会がなくなっていたが3年ぶりに市内の他施設との人材交流が再開され、感染対策や対応について情報交換する機会を持てた。職員が外部との交流機会をもつことは人材育成ややりがいには重要な要素となっている。</p>		<p>《総合評価》 A</p>
<p>《次年度以降にむけて》 喀痰吸引が必要な利用者が増加しているため、施設内で受講できる喀痰吸引研修の参加機会を増やしていく。また、他施設との人材交流や派遣研修などで職員が外部との交流が図れる機会を作っていく。</p>		

<p>地域にむけて</p>		
<p>《取組内容》</p>	<p>《結果》</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 虐待等による緊急ケースを適宜受け入れ、高齢者福祉のセーフティーネットとして地域からの信頼に応える。 	<ul style="list-style-type: none"> 各関係機関と連携して虐待ケースなど緊急対応が必要な事案に取り組んだ。 	
<ul style="list-style-type: none"> 施設職員による施設サービスのPR活動と積極的な地域活動の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> とよよんで月1回定期的に地域活動として健康運動教室などを開催した。 	
<p>《総括》 地域のセーフティーネットとして、虐待ケースの緊急一時保護や行政からの措置入所などに積極的取り組みしている。多摩市をはじめ八王子市からの要請に応えることができた。地域活動は新型コロナウイルスの影響でまだ限定的ではあるが、定期的に外部で活動できたことは施設のPRに役立った。</p>		<p>《総合評価》 A</p>
<p>《次年度以降にむけて》 セーフティーネットとしての役割を引き続きしっかりと果たしていく。地域活動については施設内での活動を検討し、近隣住民へのPR機会を設ける。</p>		

《短期入所生活介護》

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
利用率：100%	104.1%
収益：46,000 千円	48,204 千円
《取組内容》	《結 果》
・ 新規および継続利用者の安定的確保。	・ 新規利用希望には適宜対応した。継続利用者の受入れについては新型コロナウイルス感染症により一時休止する期間があった。
・ 適切な感染症対策。	・ 発熱した利用者への抗原検査実施など感染の早期発見に努めた。
・ 居宅介護支援事業所・地域包括支援センターとの連携強化。	・ 緊急の利用希望について積極的に受け入れ調整に応じた。
《総括》 利用率と収益の目標は達成することができた。新型コロナウイルス感染症により一時受け入れを休止した期間があったが、それ以外では新規利用も可能な限りに受け入れてきた。入所の空床利用を積極的に活用することで利用率は100%を超えた。	《総合評価》 A
《次年度以降にむけて》 地域の関係機関との連携を図り、虐待ケースをはじめ緊急で対応が必要な事案に対応できるように努めていく。感染対応については、短期入所利用者から感染が発生する可能性もあり、利用前の健康チェックは継続していく。	

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結 果》
・ 在宅生活の継続を目指した、利用者個々の生活を意識した支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービス担当者会議への参加などで関係期間との情報共有に取り組んだ。 ・ 在宅生活の維持にむけて身体機能の低下防止に取り組んだ。
・ 適切な感染症対策を講じて、施設利用者・職員との交流を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 密の回避や手指消毒の徹底など感染対策を講じて施設入居者と共に季節の行事や各種イベントに参加した。
《総括》 定期的に利用する方は在宅生活との両立を図れるよう身体機能低下防止を意識してサービス提供に取り組んだ。短期入所利用者から新型コロナウイルス感染	《総合評価》 A

<p>症が施設に持ち込まれるリスクも踏まえ、利用前の健康チェックや利用中の3密回避などに取り組んだ。</p>	
<p>《次年度以降にむけて》 在宅生活の維持につながる支援の提供に引き続き努めていく。居宅介護支援事業所をはじめ関係機関に施設での支援経過を適宜提供し、ケアプラン作成に活用できるよう情報共有に努める。</p>	

人材育成・やりがい・はたらきがい

※ 特別養護老人ホーム参照

地域にむけて

※ 特別養護老人ホーム参照

<p>施設事業所の全体総括（特に良かった点・今後の課題など）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症について、夏の感染第7波と年末からの感染第8波では施設でも感染が発生し、利用者は施設内療養を余儀なくされる事態となった。衛生用品の確保から実際の感染対応、感染性廃棄物の処理まで日常生活では経験しない出来事に職員が懸命に対応し乗り越えてきた実績は今後の感染症対策や対応に活かしていきたい。 ・ 利用者の日常生活がコロナ禍でかなり制限的になっている。外出機会も失われ、家族との面会機会も減少している。この状況を次年度以降は少しずつでも解消していきたい。 ・ 短期入所では定期的に利用される方も多く、施設で過ごす期間に身体機能の維持向上が図れるような支援を目指して取り組んだ。今後も在宅生活の支援につながるケアを充実していきたい。

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> 健康に偕楽荘での生活を長く続けていけるよう、フレイル予防、介護予防に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 年1回以上の個別面談を行い、利用者本人がフレイル予防、介護予防を意識できるように支援し、各種活動への参加を働きかけた。日常的に料理を楽しむ機会を持てるように、簡単調理レシピの紹介や「咲く楽キッチン」など活動の幅も拡げることができた。 特養の言語聴覚士の協力を得て口腔体操の動画を作成し、フロア毎の体操を実施したり、「貯筋体操」などアプローチを変えた体操を増やすこともできた。 保証人と速やかな情報共有ができるようにスマホアプリを導入し利用を開始した。
<ul style="list-style-type: none"> 安心して生活していくため、日常生活におけるリスクの低減を図れるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々利用者が心配事として話される事柄を参考に、地域包括支援センターによる「認知症について」や行政書士による「終活について」及び警察署による「特殊詐欺について」の防犯講話など外部講師も活用した講演会も開催した。 転倒事故等があった時には原因を検証し、保証人にも説明し対策について協力を仰ぐなど都度再発防止に努めた。 毎月の防災訓練と年1回の総合防災訓練を実施した。
<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて行事やイベントを計画し、楽しみや生きがいを感じられる施設での生活を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域での新型コロナウイルス感染症の蔓延や特養でのクラスター発生の影響も生じたが、職員間で相談し縮小や方法を変更して工夫して実施できるよう取り組んだ。 中止していたクラブ活動も感染症の状況をみながら再開できた。 行事食や特別食、日本各地の郷土料理などを提供し、季節感や楽しみを感じられる食事の提供を行うことができた。 利用者が地域で活躍できる場として松が谷小学校の見守りボランティアを始めることができた。

<p>《総括》</p> <p>新型コロナウイルス感染症は年度内に4名の利用者が感染したが、施設内で拡大することなく収束できた。行事やイベント等の実施についても地域や特養などの感染症蔓延の影響で計画通りに進めることは難しかったが、方法を見直すなど工夫して実施できるように努めた。新たに利用者のいきがいにつながるための地域活動や利用者の声を聴いた日常生活でのリスクや不安の解消に向けた講座の開催を企画し実施した。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>利用者の健康寿命の延伸を目指し、栄養・健康・運動・生活習慣へのアプローチに取り組む。また、新型コロナウイルス感染症について配慮をした各種行事やイベントを工夫して開催し、施設内での楽しみや人との交流・生きがいを感じられる機会を作る。</p>	

<p>人材育成・やりがい・はたらきがい</p>	
<p style="text-align: center;">《取組内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 軽費老人ホーム職員として高齢者支援について幅広く知識を身につけるために様々な研修を通し研鑽に努める。 	<p style="text-align: center;">《結 果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各職員の個人目標シートを作成し、研修希望や目標を定めながら学ぶ機会を作っていくように施設長と個別面談を行った。 ・ 生活相談員はソーシャルワークの1年研修を受講、無資格の職員は認知症介護基礎研修を受講することができた。 ・ 関東ブロックや全国老人福祉施設大会・研究会議、アクティヴ福祉などWEBを利用することで全職員が年度内に外部研修に参加する機会を作ることができた。
<p>《総括》</p> <p>面談の機会を通し、コロナ禍でのあらゆる活動の制限による悩みや個々の職員の改善点・今後の目標を共有することができた。コロナ禍でWEBによる研修が増えたことで、全職員がそれぞれに必要な研修に参加することもできた。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>感染対策を講じながら、近隣施設との交流を図り視野を広げる機会を作る。また、WEBを活用して積極的に研修に参加するとともに、日々の取り組みについて事例発表や研究発表等を行う。</p>	

<p>地域にむけて</p>	
<p style="text-align: center;">《取組内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域高齢者に向けて健康推進のために介護予防の取り組みを行う。 	<p style="text-align: center;">《結 果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の蔓延や特養でのクラスター発生もあり、地域向けの介護予防教室は中止した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしん相談センター由木東からの依頼があり、男性介護者向けの料理教室に管理栄養士を派遣した。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が地域社会とのつながりを感じるよう、地域の一員として活動する取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松が谷小学校の見守りボランティアの他、地域の美化活動としてクリーンデイや園芸活動、障がい者団体の畑作業の手伝いなどを実施した。
<ul style="list-style-type: none"> ・施設が地域との関係を深めていくために、地域住民や関係機関にむけ、施設のPR活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・からきだ菖蒲館にて開催された「ほっとネットしょうぶ」に多摩センター地域包括支援センターからの依頼にて参加し、法人及び軽費老人ホームについて地域住民にPRする機会をもつことができた。 ・見直しを行った施設パンフレットを活用したPR活動を開始した。
<p>《総括》</p> <p>新型コロナウイルス感染症の蔓延もあり、地域高齢者に向けた介護予防教室はできなかったが、地域住民のボランティア活動の受け入れ、利用者のボランティア活動の再開、関係機関との交流などを少しずつ再開することができた。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>感染対策を講じながら、施設・利用者地域住民との交流の場を拡げていけるように場所や方法を工夫し実施していく。また、地域で行われている様々な活動にも積極的に参加し、借楽荘の認知度を向上させる。</p>	

<p>施設事業所の全体総括（特に良かった点・今後の課題など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍であらゆる活動が制限されている状況が続いていたが、職員間でコミュニケーションを図りながら、現状でやれることを検討・工夫して取り組むことができ、利用者の社会貢献につながる活動も新たに始めることもできた。 ・ 退居者の増加に伴い待機者が減少し、これまでの元気高齢者の入居から介護保険認定がついている方が入居対象となってきた。職員間でもその状況を受け入れ柔軟に態勢を整えることができた。 ・ すぐの入居を希望する待機者が減少しており、待機者数を増やすことが重要である。 ・ 地域での軽費老人ホームの認知度は低く、知っていても「終の棲家ではない」「動けなくなったら出ていかななくてはならない」という声が多く聞かれる。軽費老人ホームで生活することが、日々の「安心」と誰もが望む「ピンピンコロリ」につながり、介護が必要な状況になっても適切な場につながるように支援することを地域住民・関係者に周知できるようにしていくことが今後の取り組みとして重要である。

IV. 在宅サービス（通所介護・訪問介護・居宅介護支援）

1. 白楽荘デイサービスえがお・ほのぼの

令和4年度の重点的な取り組みについて

《白楽荘デイサービスえがお》

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
利用率：70.0%	65.7%
収益：73,500千円	67,517千円
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症対策を講じた安定的なサービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の対応を取りながらも7月から8月にかけて、利用者及び職員から多数の感染者を出し、一時的な休止と職員確保の困難から8月中の土曜日の休止を余儀なくされた。
<ul style="list-style-type: none"> 職種間の役割を超えた連携 	<ul style="list-style-type: none"> 介護、看護、相談の職種だけに特化するのではなく、どの職種もある程度の業務を担うことが出来る体制を確保した。 常勤比率が全体の2割程度の事業所として、臨時職員の貢献度の高さを認識している。
<ul style="list-style-type: none"> 収支改善への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う損失は凡そ220万円である。目標の達成には至らなかったが、取り組みとしては相談員を中心に計画通りに取り組むことが出来た。
<ul style="list-style-type: none"> 介護保険改正に対応する専門委員会の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度中の委員会の開催は出来たが、指針の策定だけに留まり、マニュアル等の整備は不十分に終わった。
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響は7月末から8月に掛けて長期に及んだ。職員の感染による人員の確保が出来ず大幅な減収になる。また、職員の安定的な確保が困難な状況が続いたため、重点的な取り組みは7割程度の達成に終わっている。 	《総合評価》 <p style="text-align: center;">B</p>
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 職員の安定的な確保が最優先の項目となる。しかし、必要な人員が確保出来ないことも予測しながら、事業運営の指針を幾つか立てながら安定した経営を目指していかなければならな 	

い。また、委員会の運用に関しては事業所単独で行うのではなく、在宅サービスセンターの事業所が共同して実施出来る指針を確立していかなければならない。

提供サービスの充実・向上

《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> 小集団の効果を活かした「生活リハビリテーション」を充実させ、利用者の自立支援に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護職員を中心とした支援を毎日取り組むことが出来た。評価やメニューの開発も都度行っており、安定した「生活リハビリテーション」の提供が出来ている。
<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症対策を講じたレクリエーションなどのプログラムを充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアや専門の療法士など、外部との接点は最小限に留まっている。工夫をしながら実施しているが、職員だけの取り組みには限界が生じている。
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で、プログラムやレクリエーションの支援は職員が中心となっている。しかし、専門的な支援を提供するには限界も生じている。 	《総合評価》 A
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> クラブ活動やイベント等、職員だけでは難しいプログラムを充実させていくために、外部の専門的な支援やボランティアの方の介入を進めていく。利用者と地域の方の結びつきについて、新型コロナウイルスの状況をみながら積極的に実施する。 	

人材育成・やりがい・はたらきがい

《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> 正職員の役割を見直し、職種に捉われずサービス全体の遂行能力を向上する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度の計画とおりに進んでいたが、第3四半期中の正職員の退職に伴い、年度途中で実施が滞ってしまった。
<ul style="list-style-type: none"> 全職員の意見が反映される職場環境の整備、サービスの改善と業務の効率化に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員を対象にした職員会議及びミーティングを利用し、業務改善に取り組んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> 研修制度を充実させ、支援の技術的な向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症や虐待などの必要な研修を実施することが出来たが、介護技術などの実践的な研修は未実施に終わっている。
《総括》	《総合評価》 B

<ul style="list-style-type: none"> システム変更と職員の適正な配置により、変更前に可能であった研修や会議の開催が思いどおりには出来なくなっている。少ない機会を活かしながら充実した取り組みを実施するよう心掛けている。 	
<p>《次年度以降にむけて》</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員の意見を取り入れた利用者支援や業務改善をおこなうため、会議やミーティングだけではなく職員の意見を反映させる仕組みを作っていく。研修に関してはグループディスカッションを用い、効果的な内容にするために研修計画を立てていく。 	

地域にむけて		
《取組内容》	《結果》	
<ul style="list-style-type: none"> 地域の小中学校や教職課程の介護体験を受入れる。コロナ禍で難しい場合の対応も教育委員会や東社協と協議を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で難しいながらも中学生の職場体験や教員の介護体験事業の受入れを行った。 	
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でも可能なWEBでのボランティアや地域との交流を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 多摩市ボランティアセンターと共同でWEBでの交流などを試みたが、WEBでは難しい内容であったことや職員の人員数の問題から途中から未実施となっている。 	
《総括》		《総合評価》
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でも可能な限り地域との交流や地域貢献活動を行ってきた。しかし、新型コロナウイルスの利用者や家族感情の反応を見ながらの実施では思うようにいかず、計画通りに遂行することは出来なかった。 		B
<p>《次年度以降にむけて》</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの状況を見ながらも、令和5年度は利用者支援の充実を図るためボランティアの受入れや地域との交流を積極的に実施していく。 		

施設事業所の全体総括（特に良かった点・今後の課題など）
<ul style="list-style-type: none"> 収支状況、利用者の介護状態、職員の適正人数や年齢層など、全てにおいてバランスよく事業を行う難しさを実感している。昨今職員の確保も儘ならず、介護報酬の減額や賃金の高騰など事業の継続さえ難しい状況の中で、サービスの充実を図り稼働率を向上させる難しさを肌で感じている。事業形態だけではなく職員の雇用、職員資質を考えた上で適正な経営判断が今後も求められる。

《白楽荘デイサービスほのぼの》

利用率目標・収益目標	
《目標》	《結果》
利用率：80.0%	69.7%
収益：42,060千円	37,976千円

《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症対策を講じた安定的なサービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の対応を取りサービスを実施してきたが、利用者及び職員からクラスターが発生し、8月中の土曜日の営業を一時的に休止した。
<ul style="list-style-type: none"> 職種間の役割を超えた連携 	<ul style="list-style-type: none"> 「えがお」と一体的に行っている事業であり、介護、看護、相談の職種が相互に連携するよう様々な業務を担い共有化出来るシステムを作ることが出来た。
<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を講じた上で新たな認知症プログラムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でボランティアの方の支援や外部の専門療法士との関りは最小限に留まってしまふ。職員が考えて工夫した支援を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> 介護保険改正に対応する専門委員会の創設 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度中の委員会の開催は出来たが、指針の策定だけに留まり、マニュアル等の整備は不十分に終わった。
<p>《総括》</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で7月末から8月末に掛けて大きく減収になる。目標の稼働率は達成することが出来なかったが、収支は新型コロナウイルスの影響を受けた8月を考慮した中でもある程度の数字を出せた。 	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ほのぼの」も「えがお」と同様に安定した事業運営の遂行のため、職員の確保が最優先となる。特に認知症支援や活動を考えた場合、ある程度の計画に添った職員数が必須となる事業である。 	

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> 在宅生活の継続を目的とした効果的な生活リハビリテーションを充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護職員を中心にした生活リハビリテーションの充実を図ることが出来た。
<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症対策を講じた中でのレクリエーションなどのプログラムの充実。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でのレクリエーションなどのプログラムは職員の手数や内容を考えた上でも難しいものがあつた。しかし、職員の配置に工夫を行い必要な支援を継続することが出来ている。
<ul style="list-style-type: none"> 認知症支援に特化したサービスの充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部の専門療法士やボランティアの介入が難しい中で、より充実した支援を職員だけで行う難しさがある。しかし、個別支援を

	充実するなどの工夫で必要な支援は提供出来ている。
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で、利用者支援の中心は職員のみ構成になっており、より支援の充実を図るための方策の必要性を感じた。特に地域住民や外部との関わりが無い中で、多様性を伴った支援の充実が必要不可欠である。 	《総合評価》 A
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> クラブ活動やイベント等、職員だけでは難しいプログラムを充実させていくために、外部の専門的な支援やボランティアの方の介入を進めていく。利用者と地域の方の結びつきについて、新型コロナウイルスの状況をみながら積極的に実施する。 	

人材育成・やりがい・はたらきがい

※ 白楽荘デイサービスえがお参照

地域にむけて

※ 白楽荘デイサービスえがお参照

施設事業所の全体総括（特に良かった点・今後の課題など）
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中でも、「えがお」とは違い比較的安定した数字を維持できている。しかし、通所介護の「えがお」と一体的に実施している事業のため、「えがお」と同様に職員配置と適正人数のバランスを考えた事業運営をしていかなければならない。ケアの提供では、コロナ禍で出来ていなかったプログラムや認知症支援に特化した支援内容について、再度事業所内で計画していかなければならない。

2. ほのぼの堀之内

令和4年度の重点的な取り組みについて

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
利用率：83.0%	56.3%
収益：42,350千円	320,318千円
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症対策を講じて安定的なサービスを提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月に2週間にわたり発生したクラスターで6月の稼働だけではなく、その後の稼働率の低下の要因となる。
<ul style="list-style-type: none"> 管理者の交代に伴い、正職員の配置や臨時職員の契約内容の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理者の退職に伴い、今までの職員体制を変更し、常勤職員を中心とする体制にシフト変更した。
<ul style="list-style-type: none"> 介護保険改正に対応する専門委員会の創設 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度中の委員会の開催は出来たが、指針の策定だけに留まり、マニュアル等の整備は不十分に終わった。
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 6月に発生したクラスターで数名の利用者が継続利用困難となりサービスを終了した。11月から12月に掛けて新規の受入れもあり目標とした稼働率に近づきつつあったが、第8波の影響で50%台まで落ち込んでいる。 	《総合評価》 C
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 70%前半の稼働率でペイ出来るよう、事業費の抑え込みを令和5年度も継続して行なっていく、また、非常勤職員の高齢化も顕著となりサービスの拡充のための方策を打ち立てていかなければならない。職員の介護技術力低下と付随して求められるサービス量の低下など、稼働率の向上に繋がる課題は明確化になっているが、職員配置や採用の部分で舵取りが難しくなっている。令和4年度の新規紹介のうち2件は、地域の交流会への参加がきっかけとなっているので、事業所として積極的に地域との交流を図っていく。 	

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症対策を講じて、認知症利用者支援を目的としたプログラムを実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験農園を利用する方の減少に伴い、新たな支援として生活支援プログラムや認知トレーニングなどの方法を取り入れている。

<ul style="list-style-type: none"> 地域に密着し利用者や家族との密接な関係性を活かし、自宅での生活を継続するための個別支援を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域密着性を活かして、利用者の状態把握と家族やケアマネジャーとの連携を密にし、家族等の要望や必要とされるケアを行う個別支援を実践できた。
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 体験農園の場所変更と利用者のADLの低下から、体験農園を利用できる利用者数が激減する。また、それに代わるプログラムを新たに作り、生活リハビリとともに「楽しむ」をモットーに取り組んでいる。 	《総合評価》 <p style="text-align: center;">B</p>
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 充実した認知症支援のためのプログラムを新たに取り組む。また、ボランティアとの関りも再開し、利用者と地域との交流を図っていく。 	

人材育成・やりがい・はたらきがい		
《取組内容》	《結 果》	
<ul style="list-style-type: none"> 職員会議や日々のミーティングをとおして、個々の職員の意見が反映される体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議を定期的で開催し職員からの意見の吸い上げや業務改善などの理解を得ている。 	
<ul style="list-style-type: none"> 認知症ケアや介護技術などの向上を目的とした研修制度を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 実務経験の少ない臨時職員が多い中で、介護技術の基本となる排泄介助や入浴介助を中心としたOJTを実施した。 	
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 実務経験の少ない職員に対して介護技術の基本を理解してもらうのに時間を要している。正職員を中心にOJT研修を行い、利用者支援の充実を図っている。また、業務改善の理解を得るために説明する時間を割き、認知症支援と介護技術の基本を中心とした研修を行った。 	《総合評価》 <p style="text-align: center;">A</p>	
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 正職員2名体制を基本に事業運営を行うため、臨時職員の人材育成が急務となる。介護の実際の場面で説明し理解を得る方法を取りながら、事業所全体のレベルの底上げをしていかなければならない。 		

地域にむけて	
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議の開催や認知症家族会の参加をとおして、地域に対する認知症の理解を深める取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響で運営推進会議の開催は書面での開催を今年度も余儀なくされている。また、地域の認知症家族会に参加し、ほのぼの堀之内の取り組みを地域にPRしている。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校の職場体験や実習生を積極的に受入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で予定としていた実習等は実施出来ていない。しかし、年度途中に問い合わせがあった社会福祉士の実習の受入れを行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍での地域交流の方法を見直し、感染対策を講じて地域貢献を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍での地域交流の見直しを行ったが、具体的な開催には至っていない。
<p>《総括》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との交流はコロナ禍で具体的な開催には至らず、認知症家族会への参加やWEBを通じての会議に留まっている。利用者と地域との交流も出来ていない。 	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアの再開、地域との関り、新たな認知症家族会との交流などコロナ禍で出来ていなかった試みを令和5年度は実践していく。 	

<p>施設事業所の全体総括（特に良かった点・今後の課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業費、事務費の抑制や適正な人員配置、稼働率の向上、認知症支援の拡充など「ほのぼの堀之内」が抱える問題は山積している。その中で、サービスの拡充と稼働率を結びつける方策を見出している。しかし、そのためには臨時職員の介護技術の向上が必須である。特に入浴サービスの充実を最優先事項として、サービスの質と量の両方を備えた職員の介護技術力のアップが課題点として明確になっている。また、事業所の役割の一つである地域との関わりにおいて、特に地域の認知症家族会と関りを積極的に行い、認知症利用者の方が安心して利用できるサービスの提供に努めなければならない。
--

3. 白楽荘訪問介護事業所

令和4年度の重点的な取り組みについて

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
収益 : 14,600 千円	7,826 千円
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> 訪問時のコロナ感染対策を行い、濃厚接触を未然に防ぐ対策を取りながら継続した事業運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症対策として訪問介護員への感染症対策用品の貸与、地域や利用者等の感染状況の把握を適正に実施している。特にサービスを通じての感染事例も無く12月までのサービスを継続することが出来た。
<ul style="list-style-type: none"> 登録ヘルパー職員の確保と質の高いサービス提供に取り組み収支を改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 登録ヘルパーの新たな採用には結び付かず、職員の高齢化により身体介護サービスが提供できる職員も減少している。
<ul style="list-style-type: none"> 介護保険改正に対応する専門委員会の創設 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅サービスセンターで実施している専門の委員会に参加し、必要な資料の作成等を行っている。年度途中の閉鎖と職員の退職に伴い、事業所で担っていた役割を居宅介護支援事業所に移行している。
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 登録ヘルパーの高齢化で提供できるサービス内容や提供時間が縮小されており、新規の問い合わせがあってもサービスを受けるキャパシティーに限界が生じてきた。 	《総合評価》 C
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年12月をもって事業廃止 	

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> 定期的な会議の開催や日々の業務連絡などで、事業所と登録ヘルパーとの連携を強化し安定したサービス提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回定期的に登録ヘルパーを招集して会議を開催した。必要な研修や問題点の共有を行い、登録ヘルパー同士の交流も行うことが出来た。
<ul style="list-style-type: none"> 登録ヘルパー同士の連携を意図的に行い、登録ヘルパーの孤立感を未然に防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議の開催に合わせて、登録ヘルパー職員同士で抱えている悩みや問題点を共有し、

	孤独感を和らげる方法を意図的に取っている。
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 地域で求められているサービスについて、身体介護や早朝夜間のサービスを受ける事が出来ず要望に応えることが出来ていない。サービスの充実のための方針は間違っていないが、登録ヘルパーの高齢化によるサービスの行き詰まりが生じた。 	《総合評価》 C
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年12月をもって事業廃止 	

人材育成・やりがい・はたらきがい	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 計画的に毎月の登録ヘルパー研修を実施する。 登録ヘルパーの交流を目的とした会議などを開催し、訪問時の支援方法の相談や精神的な疲弊感を未然に防ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回、感染症や虐待防止、介護技術等の研修を実施している。 普段の業務で顔を合わせる事が難しい事業形態で、専門的な相談や事例検討を行い適切に対応出来ていた。
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 職員の横の繋がりが難しい事業形態の中で、顔が見える関係作りを定期的に行っている。 	《総合評価》 B
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年12月をもって事業廃止 	

地域にむけて	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で実施できていない専門学校の在宅実習に対し、昨年度と同様に講義形式の実習に対応する方法を検討する。 関係機関や他の事業所との交流を図り、白楽荘訪問介護事業所のPRに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度も新型コロナウイルスの影響で在宅実習が出来ていない専門学校生を対象に講義を2コマ(180分)実施した。 新規の受入れが出来ない状況の中で9月以降のPR活動は意図的に行っていない。
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 地域との交流など、予定していた内容の実践には至っていない。しかし、その中でも依頼を受けた内容については適切に対応している。 	《総合評価》 B
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年12月をもって事業廃止 	

施設事業所の全体総括（特に良かった点・今後の課題など）

- 平成8年に多摩市から受託したホームヘルパー事業を起点とし、平成12年の介護保険制度の開始とともに訪問介護事業所としてサービスを提供してきた。登録ヘルパーの高齢化と新規の採用ができない状況で必要とされるサービスに応えることが難しくなっていた。
- 事業継続について職員配置の見直し等様々な検討をしてきたが厳しい状況の打開にはいたらず、令和4年12月末での事業廃止を決定した。
- 令和4年11月でサービス提供を終了し、その後12月末までに他サービス事業所へ利用者全37件の引継ぎを滞りなく完了した。
- 訪問介護事業の廃止を選択したことで気付いた点がある。それは「サービスの商品価値」である。ケアマネジャーがサービスを紹介する際は、利用者の特徴や家族等の希望を聴き想像しながらサービスを考えて紹介する。その時の引き出し（商品価値）が多ければ紹介される確率も増すことになる。例えば、「入浴なら白楽荘」「緊急受入れなら白楽荘」「送迎の融通が利くのは白楽荘」「食事内容なら白楽荘」「見学行くなら笑顔の受付け白楽荘」この「○○○なら」を様々な事由で増やしていくことが必要である。実際には担当職員が実践している項目も多いが、内容を言語化することで更にサービスの商品価値が上げられる可能性がある。

4. 白楽荘居宅介護支援事業所

令和4年度の重点的な取り組みについて

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
収益 : 17,800 千円	16,301 千円
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においては、地域やサービス事業所の感染状況を把握し、担当利用者やサービス事業所だけでなく市中感染の蔓延予防にも努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内のサービス事業所などの地域の感染状況の把握に努め、法人内での共有に努めている。また、訪問に関して事前に利用者やその家族の体調を確認した上で職員の感染予防に努めている。
<ul style="list-style-type: none"> 利用登録件数や実績件数、ケース内容について事業所内で共有し、新規依頼の受入れ可能件数などを常時把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内はもちろんのこと、居宅とよがおかとも連携し双方の登録件数や実績数の把握に努め、新規受入れに応じている。
<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の介護保険改正に対応するため、在宅サービスセンター内に専門の委員会を創設する。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要とされる4つの専門員会の立ち上げを行い、令和4年度の委員会の開催と必要な指針の策定を行った。
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度内の職員の退職と異動に伴い、目標とした件数の到達には至っていない。しかし、その中でも新規の受入れを行えるよう事業所内での体制の整備を行う。また、居宅とよがおかにも数件の引継を行い、法人内でケースを担うよう連携している。 	《総合評価》 B
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 新規の受入れ体制を確保するため、事業所内でのケースの共有や進捗状況の把握に努めなければならない。また、居宅とよがおかと連携し法人の居宅としての役割を全職員で理解し共有する必要がある。 	

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> 事業所内で利用者情報やケース内容の把握を行い、適切なケアマネジメントに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に1回、またはケースを受け持った都度に事業所内での情報の共有を行い、プランの適正化を目的とした点検作業を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 適切なケアプラン作成によるケアマネジメントの充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 申し送りやケースの相談が出来る体制を確保し、アセスメントの共有とプランの共有

	化を図り、上司や他の職員の意見を取り入れる風土づくりを行う。
<ul style="list-style-type: none"> 同一法人の居宅とよがおかとの連携を強化し互いに支援できる体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回又は随時、居宅とよがおかと連携した会議を開催している。コロナ禍でオンライン形式での開催となるが、相互に連携できる体制を整備している。
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 職種の特性から職員個人の判断でケースを進めていくことが多い中で、適切にマネジメント出来ているか否かの判断は難しいものがある。そこで、事業所内のケースの内容を共有することでマネジメントの充実を図れることが出来た。 	《総合評価》 A
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 適切なマネジメントを図るための方策として、令和4年度と同様に事業所内の情報の共有と意見交換できる場面を多く作っていく。特に新任の職員に対しては積極的に関わりを持ち、OJTを目的とした指導も含めて実践していく必要がある。 	

人材育成・やりがい・はたらきがい	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 事例検討会や勉強会への参加し、専門的な知識の習得に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内のみならず、地域で開催される勉強会や事例検討の研修を通じた知識と技術の習得に努めている。
<ul style="list-style-type: none"> 職員個々の研修計画に基づき、WEB研修を活用し関係機関等が開催する研修に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所でのWEB環境の整備がされた中で、マネジメント研修を中心とした研修会に参加している。
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 各職員が参加した研修資料を基に、他の職員も学べるよう具体的な研修報告書の作成を行い閲覧できる環境を整えている。 	《総合評価》 A
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 研修制度の充実と共に、毎月1回のとよがおか居宅との合同会議に法人の管理職も参加する形式を継続していく。会議で出た議題や課題を明確にし、職員の意見を吸い上げて法人運営に参加できる体制も同時に構築していく必要がある。 	

地域にむけて	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 関係機関や地域包括支援センターとの情報交換や連携を積極的に行い、地域活動の情報を収集し社会資源の活用に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関や地域包括支援センターとの連携を積極的に行っている。また、令和5年度から始まる多摩市内の主任介護支援専門員

	の連絡会の開催に伴い事業所の管理者が会長として積極的に地域に関わる。
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で地域のイベントが軒並み中止となったが、地域で「顔」の見える関係性作りを引き続き検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での地域活動はほぼ皆無の状態であった。しかし、とよがおか居宅と連携し豊ヶ丘で地域向けの「クリスマスイベント」を多摩市社会福祉協議会とも連携して開催することが出来た。
<p>《総括》</p> <ul style="list-style-type: none"> 居宅単独での地域活動は難しい中で、とよがおか居宅と法人本部とも連携し市内の感染状況を見ながら大きなイベントを開催することが出来た。また、主任介護支援専門員の連絡会を中心に事業所として地域に貢献できる体制の整備を行う。 	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域との関りについて、居宅支援事業所だけの役割ではなく主任介護支援専門員の連絡会、介護保険認定審査会への参加など、可能な限り地域に貢献できる体制の整備を行っていく。 	

施設事業所の全体総括（特に良かった点・今後の課題など）

- 年度途中の職員の退職に伴う異動で新たに配属された職員の指導が事業所の業務として大きな比重を占めた。令和3年度の他部署からの異動についても、個々の職員努力もあるが事業所内での育成が充実し、育成計画の期間を大きく短縮する効果が出ている。2名ともに介護支援専門員の資格を取得してからの異動であり、今後も法人内の異動の成功事例として介護支援専門員の資格習得に一役を担っていかなければならない。

5. 白楽荘居宅介護支援事業所とよがおか

令和4年度の重点的な取り組みについて

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
収益 : 17,050 千円	16,729 千円
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においては、地域やサービス事業所の感染状況の把握を行い、利用者やサービス事業所だけでなく市中感染の蔓延予防にも努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 白楽荘居宅と同様に市内のサービス事業所や市中感染の状況を法人内での共有に努めている。また、利用者及び家族が感染した場合の対応をいち早く行い、他のサービスへの感染やクラスターの防止に努めている。
<ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャー1人当たりの登録、実績件数の把握と居宅介護計画書の点検を事業所内で実施し、安定した事業運営に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 白楽荘居宅との会議資料として毎月の件数と実績報告を定期的に行っている。ケース毎の難しさはあるが、数字を通じた法人への貢献度も図っている。
<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の介護保険改正に対応するため、在宅サービスセンター内に専門の委員会を創設する。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要とされる4つの専門員会の立ち上げを行い、令和4年度の委員会の開催と必要な指針の策定を行った。
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 「とよよん」を含めた豊ヶ丘拠点の運営は、単独の居宅介護支援事業所では難しいものがある。特に収支については毎月のランニングコストが大きく押し掛かってきている。 	《総合評価》 B
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 拠点としての経営を考え、「とよよん」を含めた事業の在り方について検討しなければならない。事業所だけではなく法人とも連携しながら収支の改善を図らなければならない。「とよよん」は楽友会だけではなく、UR都市再生機構、多摩市、多摩市社会福祉協議会とも連携した事業のため、収支改善のための方策を4者間で協議を行い令和6年度以降の方針を固めていく。 	

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> 各ケアマネジャーのケース内容の情報共有を行い、適切な支援とプランの作成が出来る 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内で適切なマネジメントを遂行出来るよう、各ケースの情報共有を図り事業所内で検討できるシステムを構築している。

<p>るようチームケアに重点を置いたサービスの提供に努める。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 白楽荘居宅と常に連携を取り、法人内の2か所の居宅介護支援事業所双方を活かす方策を取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 白楽荘居宅とは定期的に合同会議を開催し、各事業所の状況や傾向などの情報共有を図っている。
<p>《総括》</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員間の連携が良いケアマネジメントに繋がることから、情報の共有化とそれに付随する風土づくりに力を注いできた。また、困難とされるケースを上司に報告し適切なマネジメントを仰ぐシステムの構築も行っている。 	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度も同様の取り組みを継続していくが、更に白楽荘居宅と連携し事業所が抱えている問題、個々の職員が抱えているケースの情報共有に努め、職員個人だけでなく事業所全体で取り組んでいく体制を整備していかなければならない。 	

人材育成・やりがい・はたらきがい	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 関係機関や地域の事業所間で実施される事例検討会や勉強会に参加し、ケアマネジメント技術の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内及び地域の事業所で開催される事例検討などの研修会に参加し、その後事業所内でも検討内容を深め、ケアマネジメント技術の向上に努めている。
<ul style="list-style-type: none"> 法人運営に対して、職員の意見が反映されるよう合同の居宅介護支援事業所の会議を定期的で開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的で開催される合同の会議等には法人の管理職も参加し、事業所運営の実態や抱えている問題点を共有し解決を図っている。
<p>《総括》</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人本体と離れた場所に位置する拠点のため、職員の孤立感を無くすための方策を取っている。特に管理者を中心に些細な情報も集めながら職員への周知と理解を促している。また、個々のマネジメント技術の向上のため多くの研修に参加し、得た知識を職員で共有することに力を注いだ。 	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">A</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <ul style="list-style-type: none"> 人材育成を目的とした研修や事例検討会への参加を継続して行なっていく。また、事業所としてだけでなく、職員個人と法人との繋がりを大切にするためのシステムを意図的に作りだしていく。 	

地域にむけて	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 「とよよん」の運営に関して、多摩社協や商店街の主催のイベントへの参加だけでなく、法人及び居宅とよがおかが主催するイベントの企画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のイベント開催が難しい中で、白楽荘居宅、多摩市社会福祉協議会とも連携したイベント（クリスマスイベント）を開催した。約150名の地域住民が参加した。
<ul style="list-style-type: none"> 「とよよん」を通じて、地域包括支援センターや地域住民との交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「とよよん」では中部地域包括支援センターの相談日や市民向けの講座を定期的に開催している。また、イベントや活動を通して地域住民との交流を行っている。
《総括》 <ul style="list-style-type: none"> 「とよよん」を通じ地域住民との交流機会を多く図ることができている。しかし、新規相談もあり、担当するケース数が増加していくことで、その関りが難しくなるのが現状である。 	《総合評価》 A
《次年度以降にむけて》 <ul style="list-style-type: none"> 「とよよん」の在り方を検討しながらも、地域に密接する事業所の特性を活かした活動を模索し、居宅としての活動や地域貢献を模索していく。また、豊ヶ丘貝取商店会の一員として地域を盛り上げるために会合やイベント等に取り組んでいく。 	

施設事業所の全体総括（特に良かった点・今後の課題など）
<ul style="list-style-type: none"> 3人体制の居宅としての事業内容は安定した1年であった。新規の受入れは地域包括支援センターを中心に多く依頼を受けてきた。しかし、ここ数年の傾向として、依頼を受けて訪問や書類の作成を行っても結果的に退院ができないなどの理由でサービス提供に繋がらないケースが増えており、令和4年度の新規依頼件数のうち、実際に介護報酬請求につながったケースは約6割に留まっている。また、今後の課題として拠点としての収支状況の改善である。隣接「とよよん」の運営は順調にしても、居宅単独で拠点を構えるには毎月の多くのランニングコストが嵩み、法人運営そのものを圧迫している事実がある。次年度内に対策を講じて令和6年度には新しい仕組みを構築する必要がある。

V. 地域包括支援センター

1. 多摩市多摩センター地域包括支援センター

令和4年度の重点的な取り組みについて

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
委託費：38,400 千円	37,950 千円
予防予防支援等収益：12,000 千円	12,949 千円
《取組内容》	《結 果》
・ 介護予防支援費・介護予防ケアマネジメント費の安定的確保。	月次の請求件数は入院や区分変更等、様々な理由で変動しているも昨年度より若干増加している。
・ 人件費支出の適正化。	複数職員の入れ替わりがあり、人員補充するための費用が大きな負担となっている。
・ 事業費支出の適正化。	コロナ禍の結果（会議やイベントの中止等）として、燃料費や駐車料金を削減することができている。
・ 事務費支出の適正化。	両面印刷や郵送料等の削減への取り組みは定着しており、削減への意識も醸成されている。
《総括》 介護予防支援収益は微増し安定した収入を確保できている。その半面、退職が複数あり人員欠員期間は残業時間を減らすことができず人件費支出の適正化を図ることができなかった。	《総合評価》 B
《次年度以降にむけて》 規定通りの職員配置を行い、また職員個々のスキル向上や適切な業務分担を行うことで残業時間の削減および心身の健康に留意できる環境をつくる。	

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結 果》
・ 自立支援型ケアマネジメント能力の向上。	毎月ぐっどらいふミーティング対象者選定会議を行うことで、ケアマネジメント能力の向上を図ることができている。
・ 「総合相談支援業務」をはじめとした業務遂行能力の向上。	指導的役割の職員とともに業務を進めていくことで、インテークから実際の支援までのOJTを行うことができている。

<p>《総括》</p> <p>日々の業務を通じ、職員個々の業務能力向上に働きかけることができている。ただ、担当圏域高齢者人口が1万人に迫り相談件数も増える中、複数職員の欠員期間もあったため、充実・向上にまで至っていない。</p>	<p>合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>安定した職員体制を作り、引き続き職員個々の課題に応じた能力向上への働きかけを行っていく。</p>	

<p>人材育成・やりがい・はたらきがい</p>	
<p>《取組内容》</p>	<p>《結 果》</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員個々の業務遂行能力の向上。 	<p>指導的役割の職員とともに業務を進めていくことで、インテークから実際の支援までのOJTを行うことができている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職務等から発生するストレスの軽減。 	<p>業務過多に伴い、職員個々にストレスが生じてしまう懸念が続いている。</p>
<p>《総括》</p> <p>担当圏域高齢者が1万人に迫るなか、多世代にわたって複雑化している問題も多い。職員が単独で抱え込まず各関係機関が連携して業務が行えるように心がけた。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>職員が安心して長く働くことができる環境をつくるために、引き続きストレスの除去等の環境整備に努めていく。</p>	

<p>市の実施方針への取り組み</p>	
<p>《取組内容》</p>	<p>《結 果》</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域特性・課題や市民ニーズの把握、社会資源の把握。 	<p>ぐっどらいふミーティングにおいて、個別ケースの検討から浮かび上がる地域課題に関する情報提供を行うことで、地域課題の集約に努めた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関（介護サービス事業者、医療機関等）とのネットワーク構築。 	<p>落合ケアマネ会や医療関係者との連携の取り組みを実施することで、関係機関とのネットワーク構築・連携強化に繋げることができた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 権利擁護関連業務への対応および権利侵害の防止・制度活用のための普及啓発活動の実施。 	<p>多摩市内において特殊詐欺被害の件数が増加傾向にあり、各関係機関とタイムリーに連携を行った。また、地域での啓発活動を行った。</p>

<ul style="list-style-type: none"> 第1号介護予防支援事業の適切な実施。 	<p>丁寧なアセスメントやモニタリングの取り組みを実施することで、高齢者のQOLの維持向上を図った。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員に対する支援・助言の実施。 	<p>落合ケアマネ会を開催することで、担当地区の介護支援専門員の能力向上につながった。また、介護支援専門員を招いて事例検討会・地域ケア会議を開催し、アセスメントの重要性について伝達することができた。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議（個別ケース、地域課題）の開催。 	<p>ケースの課題解決に向け、地域ケア会議が有効である場合には積極的に開催するとの考えに立ち6回開催することができた。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> 認知症高齢者への支援、疾患や対応等の正しい理解についての普及啓発活動の実施。 	<p>認知症カフェ（からきだ匠カフェ）や認知症サポーター養成講座を実施することで、地域の認知症高齢者への支援の充実を図ることができた。</p>		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">《総括》 新型コロナの影響が落ち着いたタイミングで地域での会議開催や地域活動企画・参加ができた。地域ケア会議は目標値以上の6回開催することができた。</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">《総合評価》 A</td> </tr> </table>		《総括》 新型コロナの影響が落ち着いたタイミングで地域での会議開催や地域活動企画・参加ができた。地域ケア会議は目標値以上の6回開催することができた。	《総合評価》 A
《総括》 新型コロナの影響が落ち着いたタイミングで地域での会議開催や地域活動企画・参加ができた。地域ケア会議は目標値以上の6回開催することができた。	《総合評価》 A		
<p>《次年度以降にむけて》 市の実施方針に沿い、着実に取り組みを行っていく。</p>			

<p>施設事業所の全体総括（特に良かった点・今後の課題など）</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナが落ち着いたタイミングで地域での活動の支援や会議開催ができた。 コロナ禍でフレイルになっている方が多く、介護予防教室・講座の開催支援を多く行うことができた。 担当圏域の高齢者人口が1万人に迫り相談件数も増加している。職員の入れ替わりや欠員期間があるため各職員の担当業務が過多になっている。規定通りの人員配置ができ、人材育成が長期的な視野で行えるようにしていきたい。

2. 八王子市高齢者あんしん相談センター由木東（地域包括支援センター）

令和4年度の重点的な取り組みについて

利用率目標・収益目標	
《目 標》	《結 果》
委託費：47,350 千円	47,170 千円
介護予防支援等収益：4,300 千円	4,570 千円
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> センター職員の確保及び定着。 	<ul style="list-style-type: none"> 3月はセンター長の異動、職員1名の退職があり規定の職員配置に欠員が生じた。
<ul style="list-style-type: none"> 介護予防支援費、介護予防ケアマネジメント費、認定調査費、実習費の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> 予防プラン145～150件程度で推移。 認定調査は3月を除き、月5件受託。 社会福祉士や看護師資格取得のための実習受け入れを行った。
<ul style="list-style-type: none"> 事業費、事務費の適正化。 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車での移動を推奨、実施した。 コロナ禍でオンラインでの会議・研修が多く、交通費や燃料費、駐車料金の抑制に繋がった。
《総括》 規定の職員配置に欠員が生じ、3月は委託料の返還となった。また、予防プランの委託件数が増え、認定調査も休止せざるを得ない状況となった。	《総合評価》 B
《次年度以降にむけて》 委託料の返還がないよう規定の職員配置を確保し、介護予防支援、介護予防ケアマネジメント費、認定調査費の安定した収入に取り組む。実習生の受け入れを継続する。	

提供サービスの充実・向上	
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> センター職員の支援等実践力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインでの研修・会議が定着し、参加する機会が増えた。 東部3包括合同で外部講師を依頼、職員向け勉強会を行った。
<ul style="list-style-type: none"> 支援力向上のためのチームアプローチの遂行。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝のミーティングや包括会議、相談記録にて職員間でケースを共有し、複数の職種・視点で検討することができた。 担当職員が不在時でも滞りなく対応ができた。

<ul style="list-style-type: none"> 多様なケースに対応するために積極的な他機関との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> 包括内で適切な社会資源や関係機関へ繋げるため対応を検討し、他機関と連携を図った。
<ul style="list-style-type: none"> 即時即応ができる緊急時対応の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談内容を複数の職員で共有し、状況に応じて対応する職種・職員を検討、対応した。
《総括》 職員間でケースを共有し、より適切な対応を検討、関係機関との連携を図ることができた。	《総合評価》 A
《次年度以降にむけて》 継続して職員間での情報を共有し、複数・多職種で相談内容の検討を行い、適切な関係機関へ円滑な連携が図れるようにする。 コロナ禍で、病院・関係機関職員と特に市内西北部地域は電話での連携が多かったため、オンライン会議や対面する機会を設け、連携体制の強化を図る。	

人材育成・やりがい・はたらきがい	
《取組内容》	《結果》
<ul style="list-style-type: none"> 職員個々の専門職としての資質向上。 	<ul style="list-style-type: none"> オンライン研修・会議へ出席することができた。
<ul style="list-style-type: none"> 主体的な講座やイベントの開催による企画力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援型地域ケア会議、圏域事業者交流会、認知症サポーター養成講座、認知症家族介護者の集い、健康講座等を企画、開催した。
<ul style="list-style-type: none"> 安定して継続的に取り組める業務マネジメント力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の個別・地域の相談を包括内で共有し、対応方針を検討。常に複数で対応した。
《総括》 オンラインで研修や会議へ出席する機会が増え、より職員の資質向上、やりがいやはたらきがいに繋がる機会が図れた。 各種会議や交流会、講座を開催し、実践を通して職員個々の企画力の向上に繋げることができた。	《総合評価》 A
《次年度以降にむけて》 引き続きオンラインでの研修・会議を活用し、積極的に出席する。 地域のニーズ、状況を踏まえ近隣包括と情報交換しながら継続して各種会議や交流会、認知症関連講座や家族会を開催し、実践を通して企画力の向上に努める。	

市の実施方針への取り組み	
《取組内容》	《結 果》
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域高齢者の自立支援、重度化防止。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コネクト八王子（リハビリ専門職団体）と連携し、通所Cや地域リハビリ活動支援事業へ取り組んだ。 ・ 自立支援型地域ケア会議を定期開催した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係部署、関係機関との連携強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者福祉課・自立支援課・保健所、はちまるサポートと連携し、対応した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症当事者や家族への支援、地域との共生と認知症予防 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症家族介護者の集いを定期開催。認知症サポーター養成講座・フォローアップ講座を開始した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケアシステム充実にむけた社会資源の開発や地域づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 由木東市民センター祭りや地域の祭りに参加した。 ・ かしまつの丘、かしま共助ネットワーク協議体、大塚陽光台協議体と連携し、地域づくりに取り組んだ。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の支援力向上にむけた包括的・継続的ケアマネジメント支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老々介護、セルフネグレクト、退院支援等のケースでは本人、キーパーソンとの連携を促し、同行訪問するなどして支援した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待防止や対応、高齢者個々の権利擁護の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待ケースでは、深刻になる前に居宅ケアマネと連携し、特養への入所へ繋げた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のICT活用の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援コーディネーターを中心に、スマホ教室開催に向け近隣包括や地域で開催されている教室を見学、情報収集を行った。
<p>《総括》</p> <p>近隣3包括合同で自立支援型地域ケア会議を通年で開催することができた。</p> <p>市や関係機関との連携し、ケースの検討、対応ができた。</p> <p>高齢者のICT活用に向け講座を見学し、情報収集したが定期講座開催には至らなかった。</p>	<p>《総合評価》</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>《次年度以降にむけて》</p> <p>市の実施方針に沿って、自立支援・重度化防止の事業へ積極的に取り組む。</p> <p>高齢者のICT推進に向け自治会やシニアクラブ等のニーズを把握し、スマホ講座や市がすすめている「てくポ」の普及に取り組む。</p>	

施設事業所の全体総括（特に良かった点・今後の課題など）

- ・ 事業所内で個別ケースや事業の情報を共有し、職員間で対応を協議し、市や関係機関と連携することができた。
- ・ 地域住民や事業者向け地域サロンやシニアクラブ、会議等を通して八王子市の方針や取り組みの紹介、自立支援の意識付け、促進を図る。また、介護予防・自立支援を目的とする事業を実施する。

《参考》 総合評価集計表

	A	B	C
法人	2	2	0
白楽荘・白楽荘短期入所	5	1	0
偕楽荘	3	1	0
白楽荘デイサービスえがお・ほのぼの	3	3	0
ほのぼの堀之内	1	2	1
白楽荘訪問介護	0	2	2
白楽荘居宅介護支援事業所	3	1	0
白楽荘居宅介護支援事業所とよがおか	3	1	0
多摩センター地域包括支援センター	1	3	0
あんしん相談センター由木東	2	2	0
合計	23	18	3

